

『遺跡学の宇宙』の刊行

遺跡の調査、保存、整備の体制と手法が作り上げられる戦後黎明期に活躍した碩学たち。この碩学たちが今だからこそ語ることのできる、当時のリアルな動きや思想があります。日本遺跡学会では、こうした観点から計九回にわたりインタビューをおこなってきました。そしてこのたび、そのインタビューをまとめ、

『遺跡学の宇宙—戦後黎明期を築いた13人の記録』として刊行することができました。この本の編集コンセプトは、先輩方のお話を軸とし、若手がその背景を探ると位置付け、インタビューに出てくるすべての遺跡と人名、また主要な出来事に注釈を添えています。

『遺跡学の宇宙—戦後黎明期を築いた13人の記録』

2014年11月20日刊行／日本遺跡学会・編

内容・体裁 B5変形・246頁

頒布価格 2,500円

頒布方法について

■目次

はじめに

第1章 「戦後埋文保護行政の羅針盤」 坪井清足氏

第2章 「遺構主義から遺跡主義へ」 平野邦雄氏

第3章 「関西考古学界の戦後」 金関恕氏・水野正好氏・中尾芳治氏

第4章 「黒板昌夫先生の思想」 仲野浩氏

第5章 「奈文研と遺跡の調査・保護」 狩野久氏・八賀晋氏・河原純之氏

第6章 「測量と庭園と遺跡整備」 牛川喜幸氏

第7章 「遺跡と都市計画の接点」 渡邊定夫氏

第8章 「史跡保護の広がり」 笹山晴生氏

第9章 「文化財保護における造園学の役割」 井手久登氏

インタビュー風景

おわりに

出典一覧

索引